



**IBARAKI TOYOPET
RACING TEAM**

GR86/BRZ Race Rd5 富士スピードウェイ

裏目に出てしまった絶妙のスタートダッシュ……

その後の追い上げで、予選同様 18 位でのフィニッシュ果たす



GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズ第 5 戦

2018 年 7 月 21～22 日 富士スピードウェイ（静岡県）

晴れ 10 周（40 台出走）

平木湧也

予選 18 番手／決勝 18 位

GR 86/BRZ レース クラブマンシリーズ第 5 戦

2018 年 7 月 21～22 日 富士スピードウェイ（静岡県）

晴れ 10 周（予選 110 台出走／A レース 45 台出走）

木村貴洋

予選 37 番手／決勝 34 位

チーフメカニック：清水 修（営業支援部）

メカニック：岩間 慎也（大津港店）



茨城トヨペットレーシングチームが、平木湧也選手とともに挑む GR 86/BRZ レースのプロフェッショナルシリーズ第 5 戦が、7 月 21～22 日に富士スピードウェイで開催された。今回はクラブマンシリーズにも木村貴洋選手がスポットで参戦し、2 台体制でサーキットに乗り込んでいた。

今回いちばんのトピックスはクラブマンシリーズに 110 台、プロフェッショナルシリーズにも 40 台のエントリーを集め、もちろん史上最多となる 150 台もの 86 と BRZ が集結していたことだ。そのため、クラブマンシリーズは予選を 3 組に分け、決勝は B レースにすら出場できぬ、予選落ちを出すこととなってしまった。

これほどの台数とあって、茨城トヨペットレーシングは木曜日からの練習開始となるが、平木選手は 3 枠しか走行がかなわず。それでも、条件はほとんどのチームに共通するのだから致し方なし。加えて連日報道されているとおり、猛暑に見舞われてダンロップコーナーの路面が悲鳴を上げた。路面の一部が剥がれてしまい、急きょ補修されたものの、スリックタイヤを履くハイパワーの車両では耐えきれないと、併催のレースではシケインを使わず、ほぼ直角に曲がるようにされたほど……。

さまざまな意味で過酷な戦いとなることが予想されたが、プロフェッショナルシリーズの予選は土曜日の 16 時 45 分からのスタートで、しかも灰色の雲でサーキットが覆われたこともあって、このレースウィークで例外とも言えるコンディションでの走行となった。

計測は 15 分間ながら、今回の平木選手はすぐにピットを離れず、コンディションの向上を待ってギリギリまでスタートを遅らせることに。残り 5 分を切ったところで、ようやくコースイン。まさにワンチャンスに賭けることになった。数台が連なる格好となり、前後の間隔をしっかりとってアタック開始！ その結果、レースウィークの自己ベストとなる 2 分 6 秒 108 をマーク、トップから 1 秒と遅れをとることはなかったにも関わらず、18 番手に。猛者揃いのプロフェッショナルシリーズの厳しさを、改めて実感させられることとなった。

「普段の予選より遅めのスタートで、路面温度は徐々に下がっていくことが予想されたので、できるだけ最後

に出て行こうと。同じタイミングで出ていくドライバーが多くて、かなり混線していましたから、場所取りが難しかったんですが、アタック自体はそんなに悪くなかったと思います。ただ、最後にシフトミスしてしまったのが痛かったです。決勝は行くしかないですね」と平木選手。

一方、クラブマンシリーズの木村選手は、久々のレースとはいえ、茨城トヨペットレーシングの初代所属ドライバーで、過去には筑波 FJ1600 で優勝経験を持つ。少しもブランクを感じさせない走りで、まずは 2 分 9 秒 125 をマーク。1 周のクールダウンの後、タイムアップこそならなかったものの、2 分 9 秒 182 と安定の走りを見せ、2 組 13 番手につけることに成功。無事 A レース進出を決め、また最速タイムが 2 組のトップが記したこともあって、37 番手スタートが決定した。

「各組 15 台しか A レースに行けないので、かなりプレッシャーはかかっていた（笑）。でも、茨城トヨペットの皆さんがちょうどいい内圧にしてくれましたし、オーナーさんにしっかり練習させてもらえたから、なんとか残れて今回はこれで良かったなあ、って正直ホッとしています。1 発目のアタックでもう少し攻められたかなというのはありましたが、そこは自分のミスなので。強者揃いのレースですが、明日も頑張ります」と木村選手。

さて、決勝レースが行われる日曜日だが、「猛暑再び！」というのが正直な印象だ。全国各地で最高気温の更新が伝えられる中、富士スピードウェイも例外ではなかった。コースインを待つ時間すらつらいのに、急に 20 分間も延長されたからたまらない。プロフェッショナルシリーズ決勝レース直前のセッションでアクシデントが発生し、コース設備の補修を余儀なくされたためだ。

しかし、そんな状況においても集中力を切らさず、平木選手が絶妙のスタートを切れたのは、今回急きょ導入したクールベストの効果かもしれない。「茨城トヨペット 86 レーシング」は、まずストレートでライバルの脇をすり抜け、さらに 1 コーナー、2 コーナー、ヘアピンでも。オーバーテイクの連発で、大きく順位を上げてストレートに戻ってることが期待された。

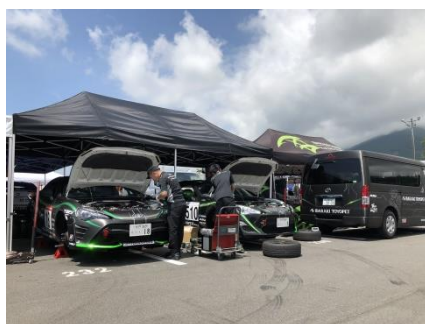
ところが、その先に大きな落とし穴が……。さらなるオーバーテイクを狙い、ダンロップコーナーに 3 台並んで中央から飛び込んでいった平木選手だったが、挟まれる格好になってしまったばかりか、押し出されてもしまい、逆に大きく順位を落としてしまったのだ。そのため、1 周目を終えた時点の順位は 21 番手に。

だが、そこからの巻き返しも目覚しかった。2 分 7 秒台後半から 8 秒台前半のタイムで周回を重ねて、4 周目にはひとつポジションをアップ。さらに 6 周目にも 1 台を抜いて 19 番手に上がると、目の前に現れたのは坪井翔選手と山下健太選手で、相手にとって不足なし。3 台でバトルを繰り返し、8 周目には山下選手をパス！ 続けて坪井選手にも迫ったが、あとコンマ 6 秒というところでチェッカーが。予選と同じ 18 位でのフィニッシュとなった。もし、オープニングラップのアクシデントがなかったなら……。運も実力のうちとはいえ、「残念！」としか言いようのないレースとなってしまった。

クラブマンシリーズの A レースに挑んだ木村選手もまた、オープニングラップの不運に涙を飲んでいて。スタート直後の 1 コーナー、ターンインの最中にブレーキングで止まり切れなかった車両があり、これを避けようとしてアウトに膨らんだところを、大量の車両にすり抜かれてしまったのだ。そのため 1 周目を終えた段階で、木村選手の駆る「茨城トヨペットドラゴン 86」は 42 番手に後退。それでも 2 周目には 40 番手、5 周目には 38 番手、6 周目には 37 番手、7 周目には 35 番手と予選順位を上回るように。最終ラップにもひとつ順位を上げて 34 位でフィニッシュ。

さらにレース後にペナルティを課せられた車両があったことから、ひとつ順位を繰り上げ、33 位という結果を得ることとなった。もし、スタート直後に 1 コーナーを無難にクリアしていたならば……。悔いの残る一戦ともなってしまった。

次のレースは十勝スピードウェイを舞台に、8 月 18～19 日に W ヘッダー大会として開催される。大量得点も可能な大会であるだけに、北海道の一番に平木選手の大活躍が大いに期待される。



平木湧也選手のコメント



「スタートは今までで一番良かったんじゃないかってほど決まって、2コーナーまでに5台抜いて、ヘアピンでも1台抜いて。その調子でダンロップコーナーでは3ワイドになって、僕は真ん中から行ったんですが、挟まれた後に押し出されてしまい、それで順位を落としてしまいました。その後のペースが悪くなかったのに、1周目のダンロップコーナーが残念でした。山下選手を抜いたのはヘアピンで、最後もう1周あれば、坪井選手も抜けていたんじゃないでしょうか。速さはだんだん出ていると思うのですが、噛み合わないですね……。足りないうちよっとの何かを見つけなければ。次の十勝は去年も走っていますし、あんまり走っていない人も多いでしょうから、なんとか前にいきたいですね！」

木村貴洋選手のコメント



「1 コーナーでハンドルを切り始めて曲がっている時に、イン側からものすごい勢いのクルマが来て、そのまま切って行ったら絶対ぶつかるだろうと避けて。外に膨らんだところを、一気に抜かれた感じです。もったいないですね。その後も 100R で、目の前でスピンとかいろいろあって、まあ、いた場所が悪かったですね。バトルもできたんですが、その間に前の集団に離されちゃって、ここに迫り着いていれば、まだ5 番ぐらい上がる可能性はあったと思います。正直、不完全燃焼です。車をどこもぶつけられなかったのは、ちょっとしたポジティブな材料ではありますが。またチャンスがあれば、リベンジしたいですね！」

チーフメカニックのコメント ～清水 修 (FUN TO DRIVE 推進グループ) ～



86/BRZRace への派遣に当たり、ご支援・ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。第 5 戦の富士スピードウェイは常に気温も高く、路面温度に至っては 60 度を越える過酷なコンディションの中での開催でした。今回は 2 台体制での参戦となりクラブマンクラスの準備やセットアップも担当させて頂きました。仕様の違う二台を比較しながら作業を進めましたが、どちらの車両も極端なタイムアップに繋がらず成績を残せなかった事が非常に悔しく思います。この思いを次戦に繋げたいと思いますので変わらぬ応援を宜しくお願い致します。

メカニックのコメント ～岩間慎也 (大津港店) ～



今回 86/BRZ レースに参加させてもらうにあたり、山縣店長をはじめ協力して下さった店舗の皆様ありがとうございました。レースは自分が車を好きになったきっかけだったので今回携わる事ができ大変嬉しく思います。普段は味わえないシビアな部分をたくさん学ぶ事ができ、タイヤの内圧にしろ、油脂関係の交換にしろ今回参加しなければ分からない事をたくさん学ぶ事ができました。普段の仕事からでは学ぶ事が出来ないことが沢山ありますので、色々な方に参加してもらいたいと思います。自分も1 度だけでなく、2 回目 3 回目と数多く参加し、少しでもレース活動の力になればと思いました。今回は本当にありがとうございました。

チーム監督のコメント ～石川 一郎 (FUN TO DRIVE 推進グループ) ～



GR86/BRZ Race 第5戦富士スピードウェイの結果はプロフェッショナルシリーズ18号車が予選：18位、決勝：18位、クラブマンシリーズ510号車が予選：37位、決勝：33位でした。ご支援、ご声援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。今回はクラブマンシリーズにも木村貴洋選手（#510 エントラント代表野村達也 氏）が出場、2 台体制での参戦となりました。そのクラブマンシリーズですが、今回のエントリーは 110 台と過去最多。プロフェッショナルシリーズにも 40 台がエントリーし、合わせて 150 台。又、併催レースの TGR Netz Cup Vitz Race も 81 台がエントリーし、GR86/BRZ と Vitz だけで 231 台が集結しました。GR86/BRZ Race, Vitz Race とともに、多くのトヨタ販売店が参戦しており販売店間の良いコミュニケーションの場となっています。しかし、今年の富士は暑かったです。全面アスファルトで風の通らない C パドックは、炎天下で 40℃超え。いつも以上にスタッフの体調管理に気を遣うレースウィークとなりました。次回のレースは 8 月 18～19 日に北海道、十勝スピードウェイで第 6 戦、第 7 戦を併せて行うダブルヘッダー大会として開催されます。真夏のレースとなりますので体調管理に十分気をつけてベストリザルトを残せるよう頑張ります。引き続き応援よろしくお願ひいたします□